



## 全校でプールの掃除をしました

梅雨まっただ中…にもかかわらず、初夏の陽射しがまぶしい日が続きます。先日、6月13日(火)には、全学年でプールの掃除をしました。

午前中に、1・2・3年生はプール周辺の落ち葉拾い、4年生は小プールとプールサイドの掃除をしました。午後は、5・6年生で、大プール、プールサイド、シャワー、トイレ、更衣室の掃除をし、放課後は職員で更にきれいに掃除をしました。5・6年生の子どもたちは、暑い日に水を触るのがちょっぴり嬉しかったのもありますが、自主的によく働いて、それぞれが担当したところをピカピカに磨いていました。19日からは、いよいよきれいになったプールで水泳が始まります。



午前中に松阪ケーブルテレビの取材が入りました。(右写真➡)昨日見ていただいた方もあったかと思います。(放送 6月15日 6:00. 8:00. 10:00. 12:00. 16:00、17日・18日のダイジェスト版でも放送されます)

## ちなみに掃除って…

ところで、学校で「自分たちで使うところ・使ったところは、自分たちできれいに」という「学校での掃除」について調べてみると、これが意外にも日本の学校独自のものなのです。

さらに近年、「日本の学校の給食当番制度と、生徒が学校の清掃をする日本の文化を外国人が大絶賛！」なのだそうです。

日本人にとっては当たり前の掃除ですが、海外では給食の準備も掃除も外部の業者がやるのが当たり前になっています。実はこれ世界が驚く日本の文化だったのです。

『沖原豊著『学校掃除』(1965・学事出版)』によれば、この伝統は江戸時代の寺子屋までさかのぼるようで、日本を初めとするアジアの仏教国、または仏教的伝統をもつ国々が教育に掃除を取り入れているとのこと。起源はもともとは宗教的などころがあるようですが、今や日本の学校では、掃除に「清潔習慣の育成、公共心育成、健康増進、勤劳体験などの教育的効果」の意味をもたせ、すぐれた文化のもとになっています。

そういえば、前回サッカーワールドカップのブラジル大会の日本対コートジボワール戦で、現地観戦した日本人のサポーターが、試合後に会場のごみ拾いをする写真が **Twitter** に投稿され、世界の称賛を浴びたことは記憶に新しいところです。

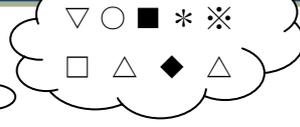
## 7月の予定

勢和図書館が7月1日に20歳の誕生日を迎えます。先日「本の森 20th 誕生祭 7/1~7/2」のご案内をさせていただきました。子どもたちもおめでとうメッセージを書きます。7/2の12:50には、集まった方々でささやかなセレモニーも予定されているそうです。是非たくさんの方々に参加していただきたいです。

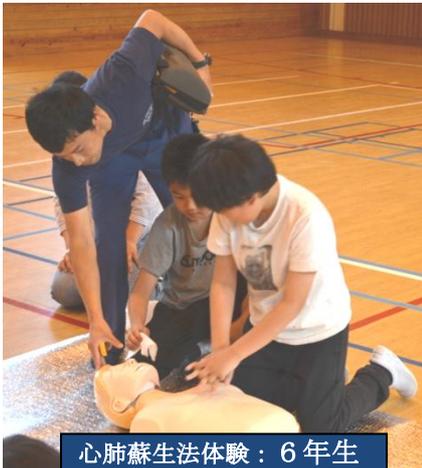
- |                              |   |  |
|------------------------------|---|--|
| 3日(月) 下校指導                   |   | 18日(火) 個別懇談会(全員)                       |
| 4日(火) 大豆の種まき(午前:1~4年)        |  | 19日(水) 給食最終日、個別懇談会                     |
| 5日(水) 交通安全教室(午前)             |   | 20日(木) 3限授業、全校集会、個別懇談会<br>スクールカウンセラー来校 |
| 6日(木) スクールカウンセラー(高先生)来校      |   | 21日(金) 夏季休業開始                          |
| 11日(火) 町赤ちゃんふれあい体験事業(3・4限6年) |   |  |
| 13日(木) スクールカウンセラー来校          |   |  |
| 17日(月) 海の日                   |   |  |

<夏休み:7月21日(金)~8月31日(日)>

## 校長のつぶやき



### 避難訓練から



心肺蘇生法体験:6年生

5月16日に、地震を想定した避難訓練を行いました。

今回は新1年生も加えた第1回目の避難訓練(年3回)で、子どもたちは真剣な表情で訓練をしていました。

また、自由参観のあった6月2日の午後には、全校で防災学習をし、PTAの救急法講習会もありました。

ところで「天災は忘れたころにやってくる」は、寺田寅彦の言葉で(正確な記録はないそうですが…)防災に関する文章などによく用いられる警句です。

寺田寅彦の随筆集には、「(要約)人は何度同じ災害にあっても決して利口にならないことは歴史が証明する。東京都民と江戸町人では、少なくとも火事に関しては今の方がだいぶ退歩している。昔と同等以上の愚を繰り返しているのである」とあります。

なかなか厳しい指摘ですが、実際には「今日、巨大地震が来るかも」と毎日びくびくしながら生活することもできません。大切なのは、災害に対応できる公的な仕組み作りと、住民の意識だと思います。心肺蘇生法を消防署の方に指導していただいた6年生は、照れることもなく、「お母さん大丈夫!!」等と声をあげながら、真剣に心肺蘇生法の体験をしていました。ご家庭でも「避難場所の確認や連絡の取り方」等の、いざというときの決め事をご家庭で話し合っただけいたらと思います。



こんなときどうする?:1・2・3年生



消火体験:4・5年生



緊急時対応訓練:全学年